

五ヶ瀬ハイランドスキー場アンケート調査意見集約 (継続の意見)

1. 町のシンボル・ブランド力の維持

スキー場が「五ヶ瀬町」という名前を広める最大の武器であり、アイデンティティであるとする意見です。

- **町の知名度**：「町外で『五ヶ瀬から来た』と言うと、ワイナリーよりも先に『スキー場があるところ』と返ってくる。無くなれば認知度が下がる」(30代、50代)。
- **イメージの損失**：五ヶ瀬といえばスキー場というイメージ。閉鎖すると観光の目玉を失い、町の活気がなくなる。(40代)
- **交流の拠点**：「一度町を離れた人が、スキー場があるからという目的で帰ってきてくれる。これほど強力な関係人口の創出拠点は無い」(40代)。

2. 教育的価値と子供たちの未来

地元の子どもたちにとっての「宝物」であり、教育の場として不可欠だという意見です。

- **郷土愛の育成**：「五ヶ瀬でしか味わえないウィンタースポーツは、子どもたちにとって計り知れない財産であり、郷土愛を育てている。」(30代、40代)。
- **学校教育への影響**：「五ヶ瀬中等教育学校のスキー教室やスキー部は、本校の教育活動や生徒募集になくてはならないもの。」(10代以下、50代)。
- **思い出の場所**：「スキー教室はとても楽しかったし、良い経験になった。続けてほしい」(19歳以下)。

3. 経済波及効果と雇用の維持

スキー場単体の収支だけでなく、町全体の経済インフラとしての役割を重視する意見です。

- **地域経済への貢献**：「宿泊施設や飲食店への経済効果は大きい。外貨を稼げる貴重な施設を簡単に無くすべきではない」(30代、50代)。
- **冬季雇用の確保**：「農業者の冬季雇用先の確保などを踏まえると、閉鎖は町全体にとって大きな損失になる」(20代)。

4. 「通年型観光施設」への転換案

冬だけの営業に限界を感じつつも、そのロケーションを活かして一年中稼げる施設にすべきという具体的な提案が非常に多く寄せられています。

- **夏場の活用:**「日本最南端の標高を活かし、避暑地やキャンプ場、星空観察の拠点としてリブランディングすべき」(10代以下、50代、60代)。
- **多様なアクティビティ:**「登山、トレイルラン、マウンテンバイク、ジップラインなど、自然を壊さない形での通年利用を検討してほしい」(20代、30代、50代、70代以上)。
- **雇用の安定:**「通年営業にすることで、季節雇用ではなく安定した雇用先を確保でき、スタッフの定着や質の向上につながる」(20代、30代、50代)。

5. 経営改善と「最後の挑戦」への期待

まだやれることはあるはずだという、経営努力や広報の強化を求める声です。

- **広報の刷新:**「YouTube や SNS の発信力を強化し、雪がない現状すら逆手に取った正直な宣伝をすれば、応援したいファンが集まるはず」(30代、40代、50代)。
 - **徹底的な見直し:**「スキー場がなくなると、五ヶ瀬って何があるの？って考える。経営コンサルタントなども導入してプロの意見を聞いて検討してほしい。(50代)。
 - **設備への投資:**「造雪機を更新して 1000m 滑走を確実に実現すれば、売上は伸びるはず。未来への投資として思い切って取り組んでほしい」(30代、50代)。
-